

# 14

## 誤飲・誤食をしたとき

子どもにとって危険なものを飲み込んだり食べたりした場合を誤飲・誤食といいます。

### 観察のポイント

- 小さい子どもは何でも口に持っていきます。落ち着いて、何を飲み込んだか周囲にあるものから推測してください。
- 飲み込んだ後、急にせき込む、呼吸がおかしい、嘔吐などを観察してください。

### こんな時はどうするの？

#### しばらく様子を見ましょう

(診療時間中にお医者さんへ)

- タバコを少しだけ(2cm以下)かじった
- クレヨン、石けん、紙、ビニール、鉛筆の芯、線香をかじった
- インク、絵の具、墨汁、化粧水をなめた



漂白剤  
石油製品などは  
吐かせるとかえって危険  
すぐに診察を

#### すぐお医者さんへ

- タバコを食べた(2cm以上)
- タバコを捨てたジュース缶などの残りを飲んだ
- 漂白剤、殺虫剤などを飲んだ
- 灯油、ボタン電池、医薬品を飲んだ
- 飲み込んだとたん、せきが始まり呼吸の状態がおかしい
- 嘔吐が止まらない
- 顔色が悪い、けいれん、意識がない



- 誤飲・誤食で処置がわからないときは、かかりつけ医や、(財)日本中毒センター「中毒110番」に相談してください。

つくば中毒110番：029-852-9999 (365日9時~21時対応)

大阪中毒110番：072-727-2499 (365日24時間対応)

タバコ専用電話：072-726-9922 (365日24時間テープによる情報提供)

中毒情報データベース：<http://www.j-poison-ic.or.jp/homepage.nsf>

## 家庭でできること

- 異物が口の中に見えるときは、人差し指をほほの内側にそって差し入れ、詰まっている物をかき出してください。
- のどに詰まっているときは、頭を下にして背中をたたいてください。
- 吐かせるときには、指をのどの奥に入れて舌を押し下げます。  
※漂白剤、洗剤（酸、アルカリのもの）など、石油製品、ベンジン（揮発性のもの）などは吐かせるとかえって危険です。
- ものによっては、ほんの少量でも生命に危険がある場合もあるので、子どもの周りに危険なものがないか、常に子どもの目の高さで確認しておきましょう。

### 吐かせ方



指をのどの奥に入れて舌を押し下げる

### のどに詰まっているとき

頭を下にして背中をたたく



輪より小さいものは危険



## なんでも医療相談

## Q & A

### Q 誤飲や誤食を防ぐ工夫はないですか？

**A** 生後5ヶ月を過ぎると、手にしたものは何でも口に持っていく時期となります。危険なものは子どもが興味を示す容器（お菓子の箱やかわいい容器）には入れないようにしましょう。そして、子どもの手が届かないようにしましょう。

### Q タバコを食べてしまったら、どうすればよいですか？

**A** タバコは味が悪く、たくさん食べることはありません。タバコの成分のニコチンで中毒を起こしますが、吸収はゆっくりで、飲み込むと吐き気をもよおしますので、重い中毒症状を起こすことはほとんどありません。2cm以上食べたようでしたら、すぐに受診しましょう。それと、水に溶けたニコチンは吸収されやすく、ニコチン中毒を起こすことがあります。灰皿の水やタバコの吸い殻が入ったジュースの缶などの残りを飲んだ場合は、至急、受診しましょう。4~5時間以上経過して無症状なら、まず安心。1日たてばニコチンは体外へ排出されます。

### Q 応急処置がわからない場合はどうすればよいですか？

**A** 応急処置がわからない場合は、**(財) 日本中毒情報センター (中毒110番)**に問い合わせてください。